

開催中の企画展

一枚の景色2

絵はがきでたどる明治・大正・昭和
令和3年3月19日(金)～6月13日(日)

絵はがきが民間で初めて発行されたのは明治33年(1900)でした。明治から大正・昭和にかけて、出来事を目で見て知る報道写真の役割を担っていた絵はがきは、当時の情景を知る最良の情報媒体と言えます。

本企画展では、中央図書館で所蔵している明治・大正・昭和の絵はがき101枚を用いて、魅力あふれる絵はがきの世界を紹介します。



▲(平和記念東京博覧会)第二会場 夜景



▲(大東京)世界に誇る国際劇場



▲(大東京)上野公園ヨリ広小路ヲ望ム



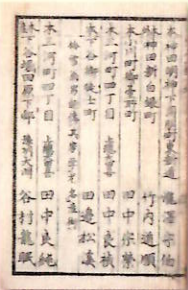
▲(大東京)浅草公園花屋敷

日記が語る台東区8 馬琴日記

6月18日(金)～9月12日(日)

戯作者・曲亭馬琴(1767-1848)の日記は、文政10年(1827)からおおよそ20年間にわたるものです。ここに記された日々の出来事から、台東区に関連する部分を抜き出して紹介します。

■ギャラリー・トーク 6月・8月開催 ■スライド・トーク 7月開催



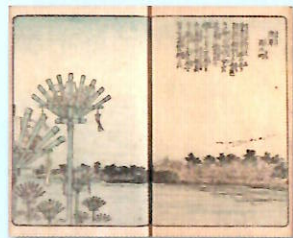
◀今世医家人名録 北部
馬琴の息子、滝沢宗伯の名が掲載される。

絵本江戸土産から見る台東区(仮)

9月17日(金)～12月12日(日)

初代歌川広重による「絵本江戸土産」には台東区の様々な名所が記載されています。この「絵本江戸土産」を用いて、浮世絵や写真などと照らし合わせながら、台東区の歴史をご紹介します。

■ギャラリー・トーク開催予定



◀絵本江戸土産 六編

台東区の古代・中世(仮)

12月17日(金)～令和4年3月13日(日)

今まであまり語られることのなかった台東区の古代・中世について、おもに江戸時代の資料からひもときます。

■トーク・イベント、ギャラリー・トーク、スライド・トーク開催予定



▲推古天皇三十六年戊子三月十八日 三社権現由来

台東区の塔(仮)

令和4年3月18日(金)～6月12日(日)

台東区立中央図書館 郷土・資料調査室

〒111-8621
東京都台東区西浅草3-25-16
TEL. 03-5246-5911
<https://www.city.taito.lg.jp/library/index.html>

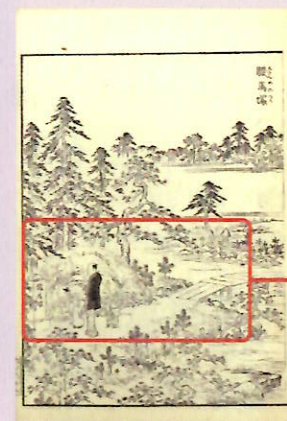
【開館時間】
月～土曜日 午前9時～午後8時
日曜・祝日 午前9時～午後5時
【アクセス】
■つくばエクスプレス「浅草」駅
A2出口から徒歩8分
■地下鉄日比谷線「入谷」駅 徒歩8分
■北めぐりん・南めぐりん
「生涯学習センター北」徒歩3分
「生涯学習センター南」徒歩3分
■都バス「入谷二丁目」停留所 徒歩3分



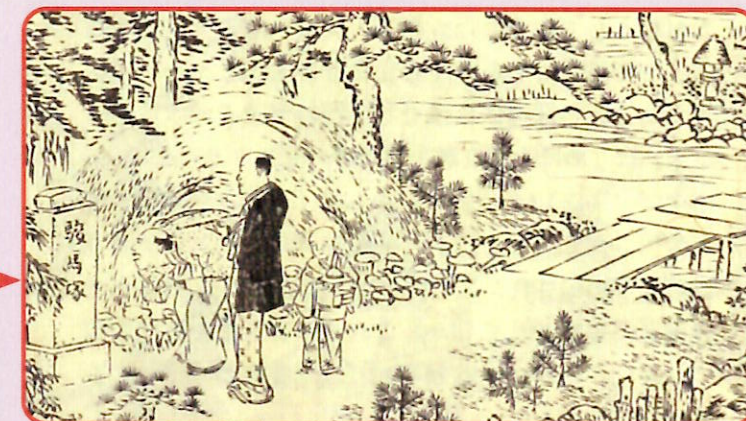
郷土・資料調査室報

2021 令和3年3月 第11号

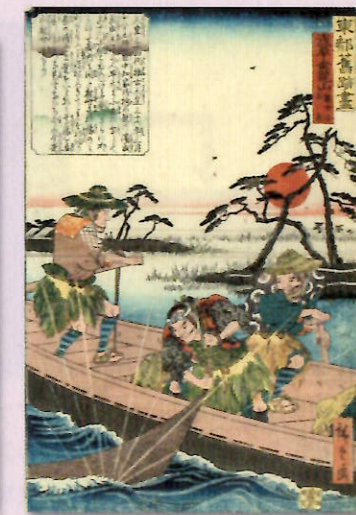
郷土・資料調査室の貴重資料を紹介するコーナー 書庫を繙く



▲江戸名所図会 巻6



▲後三年合戦絵巻 中巻(中央の武士が義家)



▲東都旧跡尽 浅草金龍山観世音由来

台東区の歴史をふりかえる際、古代・中世の時代の出来事は、史料が極めて少ないので、これまであまり触れられることはありませんでした。特に、石造物や仏像などと違い、紙に記された同時代の一次資料はほぼ皆無といってよいほどです。しかし、後に続く時代、近世(江戸時代)に目を向けると、古くからの伝承やそれに取材した物語などに、古代・中世の面影が見えることがあります。今回はこうした資料を紹介します。

江戸時代後期、天保7年(1836)に刊行された地誌『江戸名所図会』には、古い時代の伝承が記載されることが少なくありません。台東区域では、特に隅田川上流の今戸・橋場に多くみられ、次に挙げる駿馬塚もその一つです。

駿馬塚 同所南側何某か別荘の中にあり。伝云、康平中源義家東征の時、愛する所の青海原といへる駿足偶病してこゝに斃す。公大に是を傷みて朽骨を駅路の傍に埋め給ふとそ。其後里民小祠を営み建といへり。又近き頃、其地のあるし、公の明德を千歳の下に顕さんことを欲して塚の側に石碑を建て、祠は其塚の東の方に遷せり。

康平年中(1058～1065)の源義家の「東征」とは、東方を征伐した、すなわち源頼義・義家父子が陸奥の豪族・安倍氏を鎮圧した

前九年の役を指します。実際は永承6年(1051)～康平5年(1062)の12年にわたって断続的に行なわれました。この戦いに向かう際に義家の愛馬「青海原」が病死してしまったので、その亡骸を今戸の地に埋めました。『江戸名所図会』には挿絵もあり、江戸時代の頃の駿馬塚の様子を教えてください。土饅頭の形をした塚のかたわらに、「駿馬塚」と記された石碑が立ち、これを男がのぞきこんでいます。本文によれば、この石碑は義家の徳を世間に知らしめるため最近建てられたもので、塚の位置を東側へ移したとあります。

現在駿馬塚は、東浅草二丁目の地に「馬頭観音」として祀られ明治28年(1895)の石碑があるのみですが、伝承を探ることによって、鎌倉幕府を開いた源頼朝や室町幕府を開いた足利尊氏の祖先である源義家が、江戸時代いかに愛されたかがわかる史料といえましょう。

義家の雄姿は、江戸時代後期に写されたと思われる『後三年合戦絵巻』でも見られます。これは、前九年の役の後、永保3年(1083)から寛治元年(1087)にかけて奥羽地方を舞台とした「後三年の役」を描いた絵巻物です。このほか浅草寺の由来を描いた浮世絵や、謡曲「隅田川」を彷彿させる人物が登場する『浅草土産』などを展示する企画展「台東区の古代・中世(仮)」を、12月17日(金)から開催する予定です。

郷土・資料調査室紹介

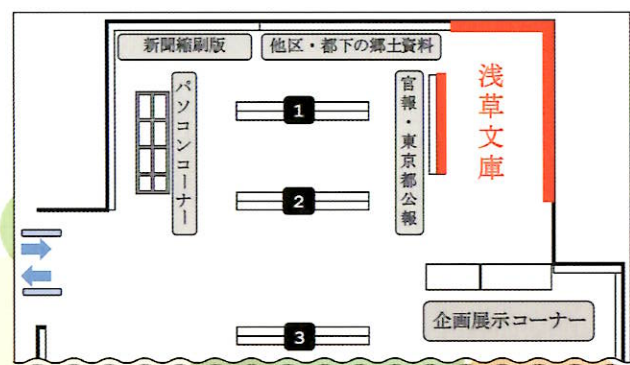
浅草文庫コーナーについて

浅草文庫は、昭和52年(1977)11月に浅草観光連盟によって設立された私立図書館で、文献を中心にビラやチラシの類にいたるまでのさまざまな資料を集めた対象としていました。関東大震災や東京大空襲などによって浅草にある多くの文化財が失われたため、さらなる文献の散逸に危惧を抱いたのが設立のきっかけです。はじめは「東京電力浅草サービスステーション」の中で、平成12年(2000)からは「テブコ浅草館」内で公開されていましたが、平成23年(2011)にテブコ浅草館が閉館されたことに伴い、図書資料約6000点が台東区に寄贈されました。これらの資料を中央図書館で公開するために平成24年に「浅草文庫コーナー」を設立しました。



蔵書印

コーナーの上に掛かっているこの瓦形のモニュメントは、設立当時浅草文庫の入口に架けられていたものです。浅草文庫資料の蔵書印が瓦形なのはこのモニュメントに由来しています。



▲郷土・資料調査室 略図
赤の箇所が浅草文庫コーナーです。

■ 特色ある資料の紹介

浅草文庫コーナーは芸能関係の資料が多いのが特徴です。公立図書館資料としては珍しい例として、下記のものがあります。

昭和5年(1930)に刊行されたサイレント時代の映画の評論です。当時、映画館が多かった浅草ならではの資料です。



▲映画界の横顔



▲喜劇 春秋座

かつて存在した浅草の劇場「金龍館」昭和2年10月の興行プログラムです。



浅草を舞台にしたテレビドラマ「こころ」(青柳祐美子・脚本 NHK)、「あんどーなつ」(長川千佳子・脚本 TBS)などの台本もあります。

新型コロナウイルス対策について

現在、郷土・資料調査室は新型コロナウイルス対策として座席数を半分にし、閲覧席にはパーテーションを設けています。

長机の閲覧席に1つつ設置してあります。



令和2年度の企画展

日記が語る台東区7 外国人が見た台東区

6月19日(金)～9月13日(日)

幕末の浅草を訪れた外国人には、シーボルト、ロバート・フォーチュン、イザベラ・バードなどがおり、現在とは異なる浅草寺や花屋敷の姿を記録しています。また、上野公園をほめたたえたクララ・ホイットニーがいると思えば、大正期には博覧会を批判する外国人もいます。

本企画展では、このような幕末から大正期の台東区を描写した外国人の日記をとりあげ、そこに登場する名所を、浮世絵や和本・絵はがきなどで紹介しました。



▲浅草金龍山(部分)

関連企画

● 展示解説動画の公開

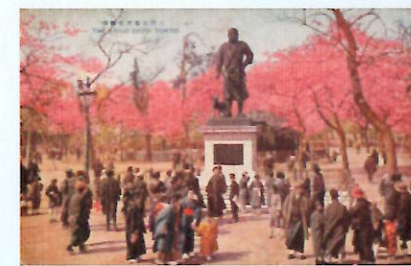
企画展の展示解説動画を台東区公式チャンネルにて公開しました。右のQRコードまたは動画サイトYouTubeで「外国人が見た台東区」と検索することでご覧いただけます。



動画は約20分です。容量が大きいため、視聴の際はご注意ください。

上野公園 ～近代の歩み～

9月18日(金)～12月13日(日)



▲上野公園西郷銅像

上野の山は、江戸時代、天海により寛永寺が建てられ、将軍家の菩提寺がある桜や蓮の名所として、一大行楽地となりました。上野戦争を経て、日本初の公園になると、博物館、美術館などが建てられ、現在の文化施設が集まる地域として整備されていきました。

本企画展では館所蔵の浮世絵・地図等の貴重資料を用いて、明治初期から昭和に至るまでの上野公園の歴史を紹介しました。

関連企画

● 浮世絵を塗ってみよう!

館所蔵の浮世絵を下絵にした塗り絵を配布しました。

● 旧町名パズルをやってみよう!

旧町名が記された地図「東京市十五区区分地図」でパズルを作成しました。

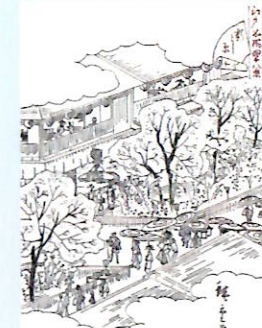
● くずし字をなぞってみよう!

館所蔵の和本で、くずし字をなぞり、ぬりえができるシートを作成しました。

● 凌雲閣のペーパークラフトを作ってみよう!

浮世絵に描かれている凌雲閣をもとに、ペーパークラフトを作成しました。

※配布は終了しました。



▲江戸名所四十八景 十八新よし原(ぬりえ)



▲凌雲閣ペーパークラフト

台東区の大名屋敷と大名庭園

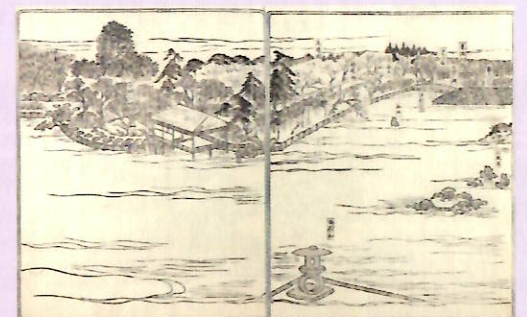
12月18日(金)～令和3年3月14日(日)

江戸時代の台東区は、町人地、寺社地に加えて武家地の割合も大きく、大名屋敷も数多く存在していました。しかし明治維新後、主をなくした大名屋敷は、住宅地などへと変化し、関東大震災や戦災により、わずかながらあった面影も今ではほとんど分かってなくなっています。

本企画展では、江戸時代の武士にまつわる資料を展示し、特に浅草橋にあった平戸藩上屋敷の名園「蓬萊園」など、かつて区内にあった大名屋敷や大名庭園を紹介しました。

関連イベント

◆ 専門員によるギャラリー・トーク 12月20日(日)



▲蓬萊園記 上(部分)

令和2年3月20日(金)～6月14日(日)に開催を予定していた企画展「台東区の橋」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期しました。